

(平成30年12月試験研究業務月報)

試験研究課題名：地球温暖化に対応した京都府丹波黒大豆系品種の生産技術の構築（平成30年度 地域適応コンソーシアム近畿地域事業）

研 究

## 丹波黒大豆の青立ち※対策技術の確立

近年、地球温暖化の影響と考えられる極端な高温や乾燥、多雨となる年が増えてきています。このような気候変動の影響により、丹波黒大豆では青立ち株が多発するようになりました。特に本年は、記録的な高温の影響による青立ち株が目立っています。

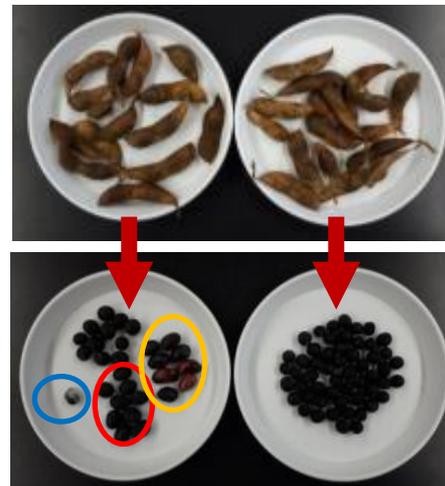
当センターでは、日本気象協会や京都大学と連携して、極端な気象の変化を回避するため、成熟促進のための早植え栽培や葉取りなどの技術の組合せを検討し、気候の影響を低減できる対策技術の確立を進めています。12月11日調査では、青立ち株の莢で、写真のとおり変形粒や未熟粒等が多くみられました。

今後、試験区ごとの調査結果を精査し、効果の高い対策技術の確立を目指します。

※青立ち：着莢不良などが原因で茎葉の成熟が遅れ、大豆の莢が熟しても、その茎葉が緑色と水分を残している症状。樹体内の水分が多いため、子実の乾燥がスムーズに進まず、変形粒や未熟粒、カビ粒などの発生につながり、品質低下の原因となる。



黒大豆の青立ち株(左)と正常株(右)の姿  
左の株では茎の緑色が残り、水分が高い状態



青立ち株(左)と正常株(右)の莢(上)と子実(下)  
青立ち株では、正常株と同様の熟色が進んだ莢からも、  
変形粒(赤丸)や未熟粒(黄丸)、カビ粒(青丸)が出現